

地籍調査2050プロジェクト

2050年までに日本全土の地籍調査を完成させる。費用負担1%で実現する「千葉長生方式」のパラダイムシフト。

1821
（伊能忠敬）

2050

NotebookLM

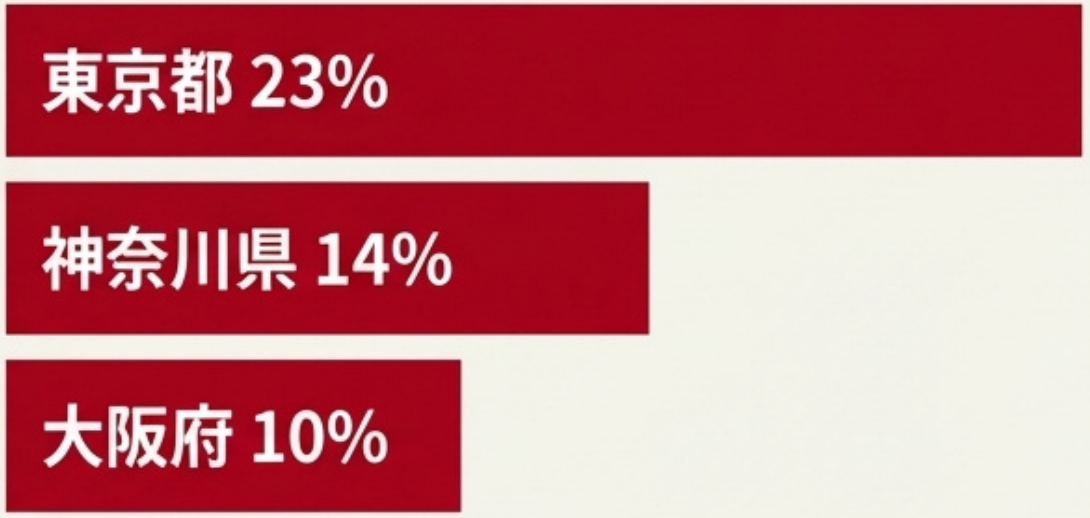
衝撃の現実：日本の完成まで「あと200年」

52%

全国平均完了率（令和元年度末）



現状のペースでは、
全土完成まで200年以上。



大地震が予想される都市部ほど、
明治時代の不正確な「公図」に
依存しているという事実。

※首長の決断で進捗は劇的に変わる（例：和歌山県は12%から48%へ急成長）。

NotebookLM

災害復興を決定づける「地籍調査」の有無

地籍調査完了地区：陸前高田市



- 境界杭が流失しても短期間で境界復元。
- 平成30年までに高台移転などの復旧が完了。

未実施・低進捗地区：仙台市・浦安市



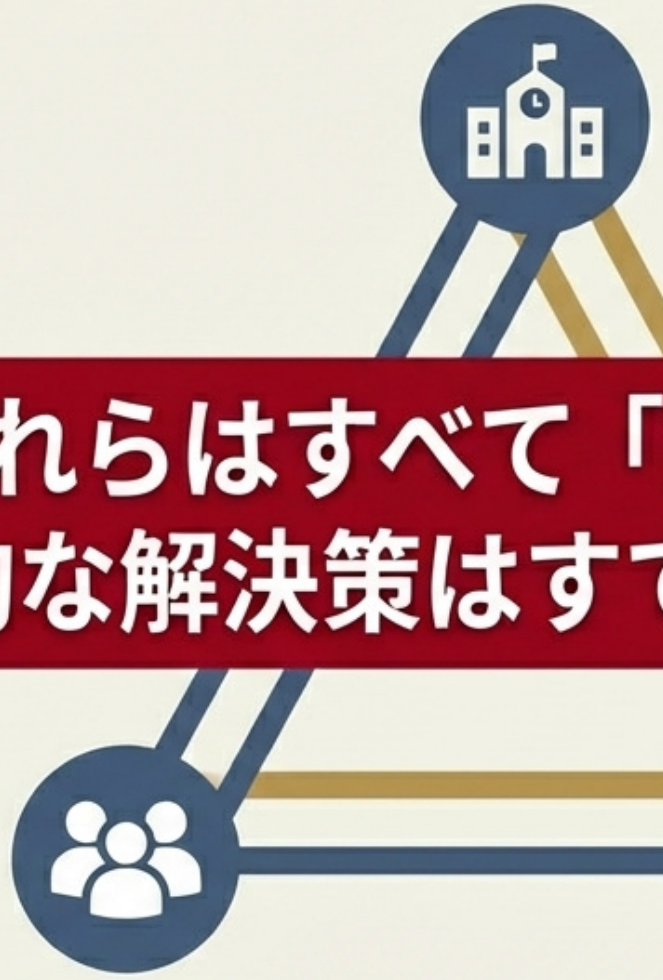


- 液状化や津波後の境界確定に膨大な時間と手間。
- 復興計画が大幅に遅延。

地籍調査は究極の「事前防災」である。

NotebookLM

なぜ地籍調査は進まないのか？「停滞の3つの言い訳」



行政

「予算がない」
「担当職員の負担が大きすぎる」

これらはすべて「誤解」です。
本質的な解決策はすでに存在します。

住民

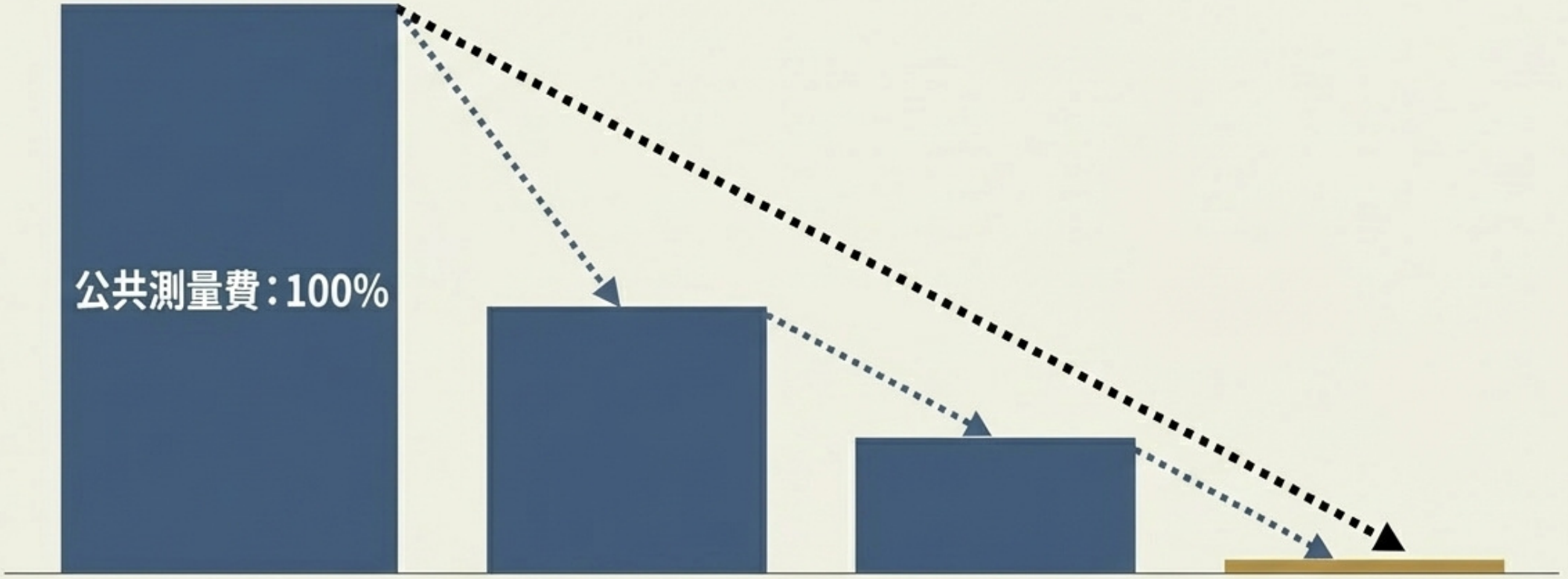
「そもそも地籍調査を
知らない」。らない」
「自分の土地は大丈夫と思っている」

業界

「広大すぎて利益が出ない」
「面倒な立会いが多すぎる」

NotebookLM

誤解①「莫大な予算がかかる」➡ 事実：市町村の負担はわずか「1%」



最終的な実質負担は公共測量単価の約1%。
これほど投資対効果の高いインフラ整備は他にありません。

NotebookLM

誤解②「100%の筆界確定を目指す」
➡事実：「所有権界」の確認が現実解

「筆界（ひつかい）」の追求

- 明治初期の不可視の線。
- 神のみぞ知る正解を探し求め、事業が永久に終わらない原因。

「所有権界」の採用

- 現代の隣接所有者同士が合意した現実の境界。
- 既存資料と矛盾がなければ、これを筆界と「推認」する。



完璧主義を捨て、現実論で進めなければ2050年完成は不可能。

NotebookLM

誤解③「職員が足りない」➡ 事実：「2項委託」で1人が20人分の事業を回す

Before（直営方式）



After（2項委託 – 包括委託）



人件費を削減した分を事業費に回すことで、
同予算で5倍～20倍の面積を一気に進めることが可能。

NotebookLM

パラダイムシフト：「千葉長生方式」による大規模推進



一社単独の限界を突破し、地域全体でマスプロ化（大量生産）を実現する仕組み。

NotebookLM

物理的障壁の突破：最新テクノロジーによる「現地立ち入り省略」

Key Technologies

- **航空レーザー測深・ドローン：**森林の樹冠を透過して3D地形データを取得。
- **リモートセンシング：**危険な山林に足を踏み入れず、高精度な地表マップを作成。

Process Change

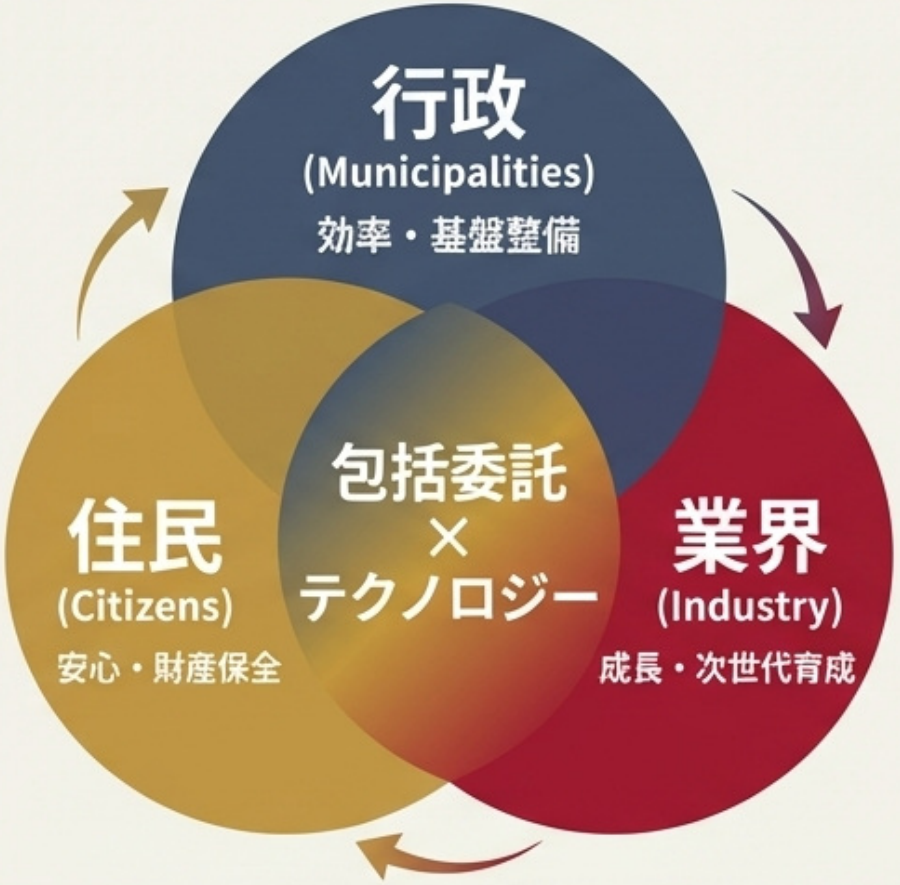
険しい山歩きを排除し、会議室のモニターに映るデジタル3Dマップ上で地権者同士が境界に合意する新プロセス。



地形的な困難は、もはや「人間の問題」ではなく「技術で解決できる問題」に変わった。

NotebookLM

全てが笑顔になる「三方良し」の地籍調査



適切な手法を用いれば、地籍調査は負担ではなく、
関係者全員に巨大な利益をもたらす究極の公共事業となる。

NotebookLM

三方良し①：【住民】ゼロ負担で得られる「究極の安心」



費用負担ゼロ:
個別に行えば30万～数十万円かかる境界確定・測量が「無料」で公の成果になる。



無用な近隣トラブルの解消:
第三者である専門家が介入することで、感情的な境界争いが平和的に解決。



迅速な土地取引と相続:
境界確定済みのため、売買や分筆登記が即日可能になり、次世代へ安心して土地を残せる。

NotebookLM

三方良し②：【行政】未来のまちづくりを支える「4次元台帳」



大幅なコスト・業務削減

道路拡幅や公共事業時の用地測量費・立ち会い人件費が激減。

正確な課税

面積の正確な把握により、公正な固定資産税の管理が可能に。

机上での都市計画

現地に行かずとも、パソコン上でシームレスな土地利用計画や防災ルート選定が可能になる。

NotebookLM

三方良し③：【業界】「儲からない」から「次世代が憧れる成長産業」へ



- **経営の安定化**
  大規模包括受注によるスケールメリットで、確実な利益を創出。

- **技術力の飛躍**
  先進企業との協働や最新ITツールの導入によるスキルアップ。

- **若手人材の獲得**
  「社会課題を解決する最先端の仕事」としてリブランディングし、働き方改革とり、次世代育成を実現。

NotebookLM

ビジョン：2050年、真の「21世紀の地図」が完成する

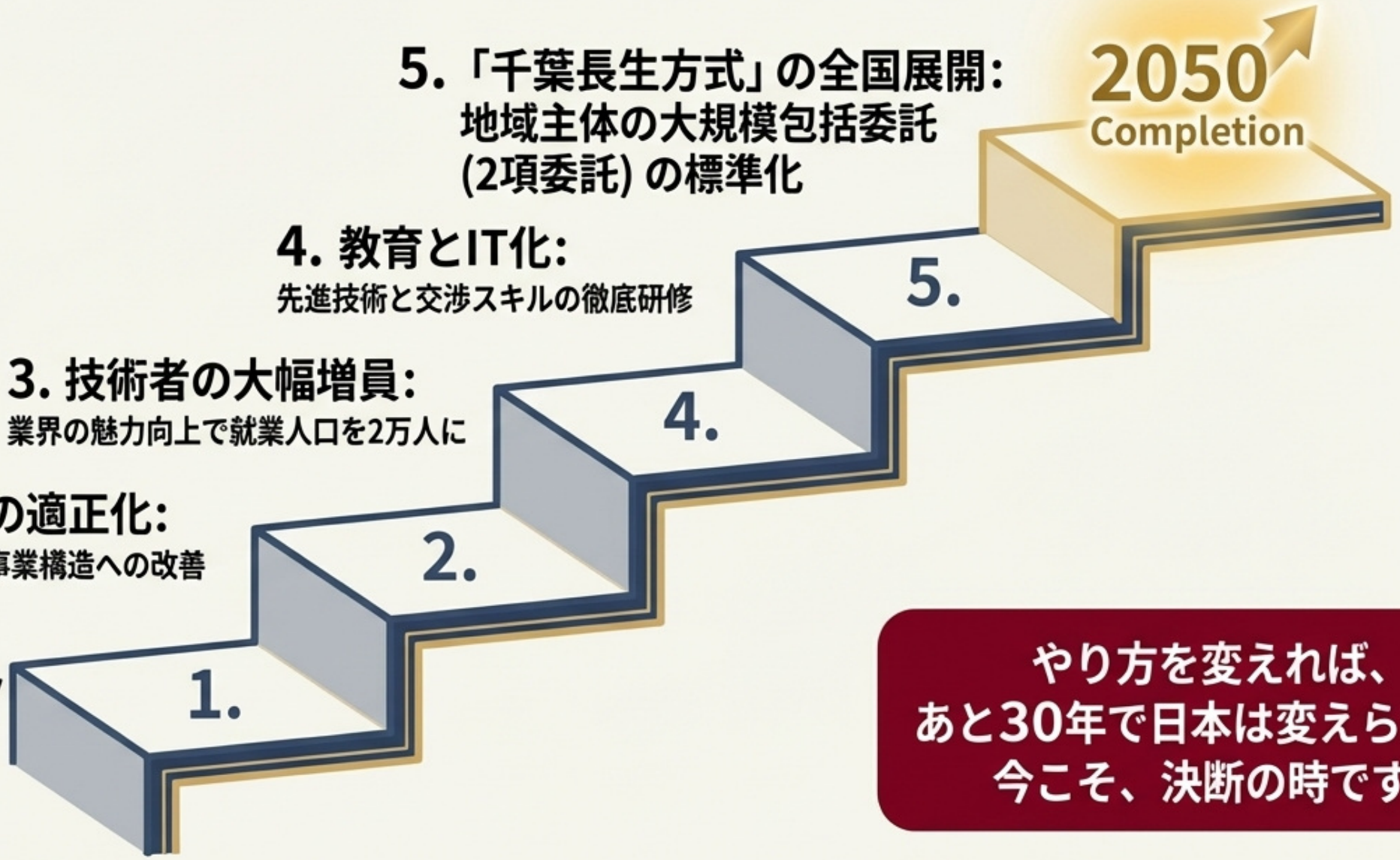


- 日本全土がシームレスな4Dデジタルマップで繋がる未来。
- スマートシティの基盤: 空き家対策、自動運転、再生可能エネルギーの最適配置が即座に計算可能。
- 即応型防災システム: 豪雨や地震の被害予測と避難指示が、正確な地籍データに基づきリアルタイムで実行される。

「空白の200年」を取り戻し、次世代へ安全な国土を引き継ぐ。

NotebookLM

地籍調査2050プロジェクト：実現への「5つのアクション」



1. 予算の確保:
署名活動と政治的コミットメント (予算8倍化)

2. 単価の適正化:
利益の出る事業構造への改善

3. 技術者の大幅増員:
業界の魅力向上で就業人口を2万人に

4. 教育とIT化:
先進技術と交渉スキルの徹底研修

5.「千葉長生方式」の全国展開:
地域主体の大規模包括委託 (2項委託) の標準化

**やり方を変えれば、
あと30年で日本は変えられる。
今こそ、決断の時です。**

NotebookLM